

西武線沿線 憧れの地

文人の武蔵野

1952年、医師国家試験に合格した手塚治虫(1928〜89年)は、上京して四谷の下宿先で漫画を描くことに専念します。翌53年にはトキワ荘に移り、「鉄腕アトム」の連載を続け、国木田独歩の「武蔵野」と未来の武蔵野に想いを馳せつつ「赤い猫の巻」を描きます。他方で「ジャングル大帝」や「リボンの騎士」を連載するなど多忙な生活を送り、売れっ子漫画家の仲間入りを果たします。

手塚治虫 ③



並木ハウスそばの雑司が谷の鬼子母神堂につながる参道。ケヤキ並木が特徴となっている。

椎名町(豊島区)にあるトキワ荘が定住先になったのは、手塚によると「プライベート空間が得られるアパート」を「西武線の沿線」という条件で探した結果とのこと。 「文字どおり田園一色の農村地帯」だった「西武線の沿線」を選んだのは、「当時の児童マンガの巨匠」である島田啓三(桜台)が「住まわれ、

また手塚最大のライバルと言われる福井英一(富士見台)をはじめとする大勢の漫画家が住んでいた「あこがれの地」だったからでした。

昭和20年代後半の西武線沿線の武蔵野エリア(1945年までの武蔵野鉄道、現在の西武池袋線)は、漫画の聖地でした。当時の西武線は、「花の都東京」を走る近代的な移動手段というよりは糞尿輸送列車が走る武蔵野の私鉄(車体は旧国鉄のリサイクル)でした。

漫画家は、誰もが認める憧れの職業ではなく、漫画自体は焚書や悪書追放の対象でした。手塚の「あこがれ」は、世間的な価値観とは異なるところで形成されたと言えそうです。 54年、手塚は雑司が谷に新

築された並木ハウスに引っ越し、それまでよりも広い仕事部屋を確保します。トキワ荘から並木ハウスまでは、およそ2・5キロ。徒歩圏内の距離感でした。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)



(丸山昭、小学館文庫)

おすすめの1冊

「トキワ荘実録 —手塚治虫と漫画家たちの青春—」

トキワ荘について書いた本はたくさんありますが、漫画家たちとともに青春を謳歌した編集者の記録を選びました。トキワ荘は、東京という都市空間とその家屋の構造的特徴の中で生まれた一種の「学校」であり文化創造の場です。表紙の写真は、並木ハウス前での著者と手塚治虫です。

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.com
都内版編集室 電話03(3217)1465・1466
江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ www.yomiuri.co.jp/local/

購読は **0120-4343-81**

【広告】読売Palette 03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

12月21日(水曜日)
旧 11月28日<友引>

■ あすの暦
通日 355
月齢 27.2 (正午)
=東京標準=
満潮 3.54
干潮 9.08
(中潮)
日出 6.46
日入 16.31
月出 4.05
月入 14.20